

## 「ヨセフ、エジプトに売られる」

2021年05月26日

ユダは兄弟に言った。「兄弟を殺し、その血を覆い隠したところで、何の得になるというのだ。さあ、イシュマエル人に売ってしまおう。彼に手をかけてはならない。彼は我々の兄弟、我々の肉親ではないか。」兄弟はこれを聞き入れた。その時、ミデヤン人の商人たちが通りかかったので、彼らはヨセフを穴から引き上げ、ヨセフを銀二十シケルでイシュマエル人に売った。彼らはヨセフをエジプトへ連れて行った。(創世記 37 章 26 節～28 節)

ヨセフの兄弟たちは、父の羊の群れを飼うために、シェケムに出かけていた。イスラエル(ヤコブ)はヨセフを呼んで、「兄弟はシェケムで羊の世話をしているはずだ。さあ、兄さんたちのところに行って来なさい。出かけて行って、兄さんたちは無事か、羊の群れは無事かを見て、知らせてくれ」と、言いつけた。ヨセフは、「はい、分かりました」と、彼らしく素直に答え、ヘブロンからシェケムに向かった。ヘブロンからシェケムまでは、百キロ弱ほどの道のりで、歩いて、数日かかる距離である。彼らは広範な地域で牧羊していたようである。ヨセフがシェケムに辿り着き、野原をさまよっていると、ある人が、「何を捜しているのですか」と聞いてきた。彼は、「兄弟を捜しているのです。どこで羊の世話をしているか教えてください」と問うた。その人は、「ドタンへ行こうと話しているのを聞きましたが、もうここから出かけてしまいました」と答えた。ヨセフは兄弟の後を追って、ドタンに来て、兄弟たちをようやく見つけた。

一方、兄弟たちも、遠くにヨセフを認めた。彼は、父がしつらえてくれた長袖の上着を着て、のんきに歩いて来る。彼らは、ヨセフがまだ近づいていない時、「見ろ、あの夢見る者がやって来るぞ。彼を殺して、穴の一つに投げ込もう。悪い獣が食い殺したと言えばよい。あの男の夢がどうなるか、見てみよう」と謀った。兄弟たちは日頃の怒りをこの時に発散させて、ヨセフを殺害しようとした。家族が彼にひれ伏すという突飛な夢を打ち砕こうとしたのである。父ヤコブから遠く離れているから、分かりはしないと殺意は高まった。

兄弟たちの殺意の謀を聞いた長男のルベンが、「命を取るのはやめておこう」と言った。更に「血を流していけない。荒れ野のこの穴に投げ込めばよい。彼に手を下してはならない」と忠告した。ルベンは、父ヤコブのヨセフへの愛を知っているので、父を嘆かせてはならないと考え、兄弟たちの手からヨセフを救い出し、父の元に帰そうとして思って、意見したのである。彼は、父の側女と床を共にする過ちを犯したが、長男として、責任的な発言をした訳である。

ヨセフが兄弟たちの所に来ると、彼を捕まえて、身に着けていた長袖の上着を剥ぎ取り、穴に放り込んだ。その後、彼らは座って、何事もなかったかのように食事をした。ヨセフに対する憎しみがいかに深いものであったかを表している。

ふと目を上げると、イシュマエル人の隊商がギルアドから、樹脂、香油、シスタス香などを積んで、エジプトに下って行こうとしていた。隊商を見た四男のユダが兄弟たちに、「兄弟を殺し、その血を覆い隠したところで、何の得になるというのだ。さあ、イシュマエル人に売ってしまおう。彼に手をかけてはならない。彼は我々の兄弟、我々の肉親ではないか」と提案した。ユダは、兄弟たちに信頼されていたのではないかと、彼の提案を受け入れた。ヨセフを穴から引き上げ、奴隷として、銀 20 シケルで売り渡した。